

# 教育会あり方検討委員会

委員長 松澤 幸嗣

## 一 研究テーマ

「魅力ある教育会のあり方を求め、伝えていく」

## 二 研究のねらい

本年度、教育会あり方検討委員会では、「魅力ある教育会のあり方を求め、会員に広く伝えていく」という昨年度のテーマを継承し、活動に取り組んできました。魅力ある教育会とは、『会員が積極的に各事業に参加し、諸活動を通してより多くの先生方と出会い、研修し、情報交換や研究会等でお互いが切磋琢磨し高め合える仲間関係を築いていける会』ではないかと考えます。そして、このことが子どもたちへの今後の指導に活かされるとともに、私たちの職能向上に繋がっていくものと確信しています。

そこで、本委員会では、他郡市から来られた先生方や新しく採用された先生方に対して、「更埴教育会の魅力や内容を伝え、より多くの先生方に会員になっていただくためにはどうしたらよいか」について考えました。また、現在会員の先生方に対して、「さらに良い点を知っていただくにはどうしたらよいか」についても考え、本年度行われた教育会の行事や事業内容を検討してきました。さらに、一般社団法人化に伴う「公益性を加味した教育会の今後のあり方」についても提案することをねらいとして、本年度の活動を行ってきました。

### 三 研究の経過

#### 1 本年度の研究事項

##### (1) 各事業のよさを伝えていく

- ① よさは何か………事業を分担し、調査・研究する。
- ② よさを伝える……伝え方を検討。「教育会だより」の発行・リーフレットの配布。  
の配布。
- ③ 加入の呼びかけ…各校代議員の協力、教育会だより・リーフレットの配布。

##### (2) 教育会長から諮問された内容について、研究・調査し、答申する。

##### (3) 「魅力ある教育会のあり方」を教育会に提案していく。

#### 2 研究の経過

##### (1) 第1回委員会 4月30日(木)

組織作り。研究内容の決定。研究推進日程の決定。

##### (2) 第2回委員会 6月23日(火)

今後の推進計画の立案。調査・研究の方法と分担。

教育会だより第1号の内容検討。

##### (3) 第3回委員会 9月25日(金)

調査・研究について報告。教育会各事業の良さの確認と改善点の内容検討。

教育会だより第2号の内容検討

##### (4) 第4回委員会 11月2日(月)

中間報告書の内容検討。教育会だより第3号の内容検討。

(5) 第5回委員会 1月22日(金)

来年度の教育会リーフレットの検討。調査・研究のまとめ。

#### 四 研究内容および答申

1 1月20日(金)の教育会理事会および総会へ、次の内容を「中間報告書」として提出しました。

##### 1 教育会総集会・新入会員歓迎会についての提言

- (1) 昨年度に比べ、わずかながら会員の参加者数が増えた。教育総集会は、会員の研修の場として大事な位置づけになっているので、会員一人一人がもっと積極的に研修の場としてとらえ、責任を持って参加できるよう、各校で地道に参加の働きかけ等を行っていくことが必要である。
- (2) ここ数年実施されている教育研究会の発表は、会員募集の時期とも重なり、大いに意味がある。引き続き、教育研究会の活動内容を詳しく紹介する場として活用し、会員に活動内容を知らせていきたい。
- (3) 講演会は、知名度のある講師をお呼びすることで、会員も一般の方も参加したくなる会になる。費用が高額になることは課題であるが、会員も一般の方も聴きたくなる講師を選定していきたい。また、財団法人化したことにより公に対する働きかけが求められていることから、会員や各家庭へのチラシ配布はもとより、ホームページを使った宣伝等、PRの方法をさらに工夫し、もっと積極的に一般の方にも呼びかけていく必要がある。

(4) 総集会後の「懇親会・新入会員歓迎会」は、新入会員が人を知る場になっているとともに、会員相互のコミュニケーションを深める良い場でもある。今後とも継続したい。また、信濃教育会からも来賓がみえているので、新入会員は全員出席していた方がよい。【新入会員】の枠を「新しく更埴に入ってきた方」というとらえで、各学校において積極的に参加の勧誘をしていきたい。

## 2 教育を語る会についての提言

- (1) 例年、初任研や市の研修会が重なることも多く、参加したくても参加できない先生方が出てきてしまうことは残念。日程の調整をしてほしい。特に、新卒の若い先生方にとってはたいへんよい研修の場であるが、初任研と重なるために参加できないことが多い。他郡に異動した後も、この更埴教育会の「教育を語る会」のよさを経験していくことで、他郡へのアピールにもなると思われる。
- (2) 他郡市から来られた先生方にとっては、更埴独自のこの会がどういう会なのかわかりづらく、参加意欲が持てない姿も見られる。そのためのPR活動を工夫して増やしていく必要がある。
- (3) 分散会の運営については、司会者の先生に任せられるところが大きい。世話係の先生、記録者の先生も含めて、運営側が負担に感じるような会であってはいけない。一番大切なことは、「参加者が語りたいことを自由に語れる雰囲気作り」だと思われる。また、本年度は、司会進行例として、昨年度の記録がいくつか配布された。効果的に活用された分散会もあったため、来年度も配布することが望ましい。

- (4) 「午前のみ参加」という先生方が多く残念。毎年、反省で参加者の人数が話題になるが、一番注目すべき参加者数は分散会の参加者数であると思われる。この人数を増やすための呼びかけや工夫がさらに必要ではないか。

### 3 教育研究集会についての提言

- (1) 「保護者、地域の方々と共に教育力の向上につとめる」ことを目標としているので、PTAや他団体への参加要請は引き続き積極的に行っていく。PTAの方の参加については、三役対応や常任全員参加、自由参加や動員参加など、学校によって呼びかける範囲や方法が異なり、参加者の人数に差があるので、参加範囲を広げたり、自由参加をなくしたりするなど、より大勢の方に参加していただけるような要請のあり方を工夫していく。その際、各学校にすべてを任せるのではなく、郡Pを通して各校の参加者にあまり差が出ないよう協力を依頼したり、教研推進委員会からPTAの方の参加について目安となる指針を出したりするなど、配慮が必要である。
- (2) 分科会は前年度終了後に行ったアンケート結果をもとに決定されたが、参加人数にはずいぶん偏りがあり、10人に満たない分科会がいくつかあった。実施年度最初の参加希望アンケートの結果を考慮し、人数が少ない分科会については隔年実施にするなど、参加人数と分科会数の調整や工夫を考えていく。
- (3) 分科会の内容に関しては、レポートの発表だけでなく、実際に参加者が活動をしたり、講師の方を招いて専門的なお話を聞いたりするような工夫をしたことで理解が深まり楽しく参加できたという感想が多く寄せられた。来年度も参

加者があまり負担を感じずに、関心を持って参加できるような内容や運営を考えていく。

- (4) 更埴西中での実施が可能になったので、会場となる各中学校の負担軽減のためにも、今後は屋代中・戸倉上山田中・坂城中・更埴西中の4校で会場を回していく方向で考えていく。ただし、校舎改築に伴い戸倉上山田中は当面の間順番を飛ばし、残り3校で会場を回していく。

#### 4 教育研究会についての提言

会員数が横ばいである。大きく減少することもないので、安定しているともいえるが、若い先生方の数は少なくなってきたため、このままでは少しずつ減少する傾向が表れると考えられる。そのための方策として、以下の方法により教育研究会の活動内容をPRしていく。

- (1) 教育会総集会の発表や、教育会だよりの「教育研究会の紹介」記事により、  
会員のみなさんに教育研究会の活動について具体的に知っていただく。
- (2) 更埴教育会HPにある教育研究会の情報サイトにより、それぞれの教育研究会の活動内容について知っていただく。
- (3) 年度当初に配布する教育会のリーフレットに、教育研究会の紹介（PR）ページを差し込んで配布するようにする。差し込みのページは、A3両面でカラー印刷とする。
- (4) 教育研究会の加入者を増やしたり、活動を充実させたりしていくためには、会員同士の積極的な声かけがとても重要である。更埴での勤務年数が少ない先

生方にとっては、会報やチラシ等を読んでも伝わりにくい教育研究会の魅力や活動内容を直接聞くことによって、より具体的にイメージできるのではないか。特に若い先生方に声をかけ、組織の活性化を図りたい。組織の継続した活動の中にも人の入れ替えがないと、毎年同じ人が事務局を繰り返し担当しなくてはならず、負担感も増してしまうおそれがある。

## 5 全郡研究会についての提言

- (1) 全郡研究会の開催時期が夏休み明けで、小学校の運動会前の時期や中学校の文化祭前の時期と重なってくるので負担が大きい。そこで、開催については例年どおり隔年で良いが、時期を9月上旬（今年度は8／31であったが）開催から11月初旬～中旬開催に変更したい。
- (2) 過去の答申を受け、先生方の負担軽減という視点から、全郡研究会の会場校を5校→4校（小学校2校・中学校1校・特別支援学校1校）とした。こうすることで、教育課程研究協議会・全郡研究会の指定を受けない学校が複数校でき、その該当校は自校の教育課題解決に向けじっくり課題を洗い出しながら、課題解決に迫る研究を学校全体で取り組むことが可能となる。そこで、次の全郡研究会の会場校も4校が妥当と考える。しかし、先生方の負担軽減の視点も考えると、将来的には「4校→3校へ」減らしていくことも検討していきたい。ただし、会場校数を減らすためには、100名以上の参加者を受け入れられる公開授業内容を、会場校ごと計画的に工夫していく必要がある。（3校にする場合は、1校120～130名の参加者になることが予想される）

(3) 全郡研究会は、あくまで「学校独自の教育課題解決に向け、学校全体で取り組んでいる内容が研究の中核に据わった公開であること」を引き続き各校に徹底する。そして、教科や領域にとらわれない、自由な発想で独自の特色ある研究が進められるようにしたい。

(4) 全郡研究会の主催は更埴教育会なので、厳密に言えば会員ではない先生方には関係のない研究会だが、現状は授業校も参加者もほぼ全員が何らかの形でかわる会となっている。全郡研究会自体はとても価値があり、今後もぜひ継続して行っていただきたいことから、教育会の単独行事としてではなく、更埴校長会も後援または共催という形で名前を入れれば、更埴郡市内の先生方すべてがかかわれる研究会に位置付くのではないか。

## 6 会報・会誌・社会科資料集等の出版物についての提言

(1) 千曲市・坂城町の社会情勢が刻々と変化してきている中、社会科資料集「わたしたちの郷土」に掲載されている各種資料も、それに合わせて定期的に見直し加筆・修正・変更をしていきたい。

(2) 社会科資料集が教育会の資料作成委員会で作成していることをほとんど知られていない。現場の教師が今の更埴地区の子どもたちに合うように資料を作成しているところに大きな意味があると考える。年間600～700部発注がないと単価がさらに上がってしまうので、単価は高いが、作成している意味や願いを理解してもらうためのPRを工夫し購入拡大に繋げていく必要がある。代議員を通してPRするのも一つの方法である。

- (3) 社会科資料集の単価を下げるために、教育会から補助は出ないだろうか。
- (4) 更埴教育会のパンフレットをより見やすいものにするために、写真を活動が分かりやすいものに変更したり、レイアウトをさらに工夫したりしていきたい。来年度は、全教育研究会の紹介写真を入れた別刷りのリーフレットを差し込んだパンフレットにする予定である。

## 7 ホームページについての提言

- (1) 更埴教育会ホームページへの関心を高め、活用を図っていくために、「教育会だより」等でホームページの存在をアピールしていきたい。
- (2) 各教育研究会の活動の様子をホームページでアップしていくことで、教育研究会の良いPRにもなり、研究会への関心をより高めていけるようにしたい。また、実践事例の紹介や学習カードのダウンロードなども検討していきたい。

## 五 今後の課題

- 1 一般社団法人化に伴い、より公益性を高める事業内容について、見直しと改善をさらに深めていく必要がある。
- 2 加入率を高めるために、更埴教育会の良さと魅力について継続的にPRしていく必要がある。そのために、事業ごと内容をさらに充実させるとともに、その発信の仕方について引き続き研究していく。
- 3 地域社会や他団体等との関わりをより大切にし、地域から信頼される教育会のあり方について、事業の改善をいっそう図っていく。

## 六 委員の構成

世話係 小宮山峰男（五加小学校長）

委員長 松澤 幸嗣（五加小学校）

副委員長 梅田 久仁（南条小学校）

委員 安藤 晴夫（八幡小学校） 栗田 哲之（屋代小学校）

山崎 俊子（東小学校） 溝口 俊一（屋代中学校）